

会 議 録

会議名 (審議会等名)	相模原市男女共同参画審議会 (令和5年度第1回)		
事務局 (担当課)	人権・男女共同参画課 電話 042-769-8205 (直通)		
開催日時	令和6年3月27日(水)		
開催場所	相模原市環境情報センター 2階 学習室		
出席者	委員	9人 (別紙のとおり)	
	その他	0人	
	事務局	4人 (人権・女性活躍担当部長、他3名)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 議題 令和5年度版相模原市男女共同参画年次報告書(案)について 2 報告事項 (1) 審議会等における女性委員の参画状況(令和5年3月31日現在)について (2) 男女共同参画に関する市民意識・事業所調査の結果について 3 その他		

審 議 経 過

次第に沿って永井暁子会長により議事が進行した。

1 議題

令和5年度版相模原市男女共同参画年次報告書(案)について

審議会等における女性委員の参画状況(令和5年3月31日現在)について令和5年度版相模原市男女共同参画年次報告書(案)について説明した。主な意見等は以下のとおり。

(竹内委員) 指標番号3について、令和5年度については増加し、40%以上にはなっているのではないかと考える。しかし、中学校の管理職の割合は、いまだに少ない状況にあると認識している。

(大木委員) 自治会長に占める女性割合については調査がなされているが、PTA活動等についての調査がされていないように思う。近年では、PTA活動等をやりたくないといった女性が増加してきており、それが自治会などの地域活動で活躍する女性が減る方向になってしまうことにつながるのではないかと懸念している。

(永井会長) PTAは女性が中心に担ってきたが、働く女性が増え、参加できない人も増えている中で、PTA活動から遠のく傾向にあるように感じる。意見として承知してほしい。

(竹内委員) PTA会長を長く続けられない等の理由で、会長を1年ごとにくじ引きで決めるなど苦慮している学校もある。学校や地域全体で子どもを育てるような考えが必要ではないか。

(大木委員) それらの状況が男女共同参画にもつながっているという意識づけがされていないと考える。都市部ではPTAや子供会はやめたいという意識になっているという現状がある。

(小林委員) 年次報告書(案)11ページの「課題及び取組の方向性」の中に「家庭や地域、職場、学校等あらゆる場で男女共同参画の裾野を広げる取組を進めていきます」とあるが、学校や公民館、地域団体、自治会、PTA、メディア等の様々な分野の方々と、行政あるいは活動団体がどういう関係を持つかが重要だと考える。そういう意味では、議論に上がっているPTA活動については、裾野を広げるうえでは重要な分野であると考え。そうした部分を課題としてもう少し詳細に記載していただきたい。

(小林委員) 年次報告書(案)全体についての意見だが、年次報告書はどのような人に配付し、どのような人が読むのか。ソレイユさがみの中では約9割の人が見えていないとのことだった。年次報告書については、例えば、4ページ目に読み方の説明はあるが、21ページ以降の事業一覧との関連性がわかりにくく、全体的に見やすくなるよう工夫できないか。

(永井会長) 見やすきの工夫については事務局で検討していただきたい。

(事務局) 年次報告書の周知については、本市のHPにて公表をしている。見やすくなるよう工夫したい。

(小林委員) 13ページの「働く場における女性の活躍推進」の「施策の基本方向1 民間における女性のキャリア形成の支援」及び「施策の基本方向2 男女がともに働きやすい環境づくり」の「取組結果の分析・評価」についてであるが、両方に「事業所における女性管理職の割合(指標番号8)について、基準値と比較すると2.7ポイント低いことから…」と記載があるなど、異なる項目で同じような表現をしている箇所が散見されるため、内容について精査をした方がよい。

(永井会長) 同じ指標を別の解釈で使用していると思われるため、表現の工夫について検討をお願いしたい。

(小林委員) 指標番号7について、男女の数値の比較を掲載した方が、意識改革についての課題がわかりやすくなるのではないか。

(永井委員) 性別ごとの数値の掲載も検討していただきたい。

(竹内委員) 教育局で「さわやか」という冊子を発行していると思うが、内容の改定状況を確認したほうがよい。

(事務局) 令和5年度において、当該冊子の内容校正の依頼が各部署になされている状況であることは把握している。

(小林委員) 基本方針4の13ページの取組結果の分析・評価について。「市の施策が十分にマッチしていない」とあるが、根拠がわからないため、根拠等の具体的な記載があった方がわかりやすい。

(事務局) 令和4年度に実施した市民意識・事業所調査の中で、先進企業の取組方法を知りたい等の意見が多数あったため、その結果を踏まえ当該表現としているが、いただいた意見を参考に表現を検討したい。

(篠崎委員) 指標番号11と12の割合は増加し、DVに関する認識が上がっていると思うが、指標番号13の相談した市民の割合は減少している。行政として要因を把握しているか。

(事務局) 市民意識・事業所調査の中で、「相談しても無駄だと思った」という理由が3割を超えていた。安心して相談できる窓口の認知度が低いと考えられ、相談体制や窓口の認知度を上げていく必要があると認識している。

(篠崎委員) 相談して得られる結果について、具体的なやり取りの例示があった方が相談しようと思う意識を高められるのではないか。

(永井会長) 相談窓口の周知方法について、工夫をお願いしたい。

(篠崎委員) 仕事柄、職場のセクハラやパワハラの相談を受けることがあり、相談者は相談したいというよりただ言いたいという人が多くいる。傾聴するような場を設けてもいいのではないかと考える。

(大木委員) 家庭内暴力全体をDVとしてとらえる考えもあるが、親子間や兄弟間の相談が来ることもあるのか。

(事務局) 法律上は親子間や兄弟間は含まれないが、本市のDV相談専用電話では配偶者間以外の相談も受けており、必要に応じて必要な機関を案内している。

(永井会長) 配偶者間以外の相談も受けていることについてより周知できるとよいのではないか。

(矢野副会長) 市民意識・事業所調査の結果を見ると、男性の相談者が少ないと感じる。DVについて、男性にも該当するという認識が広がるとより相談する男性が増えるのではないか。男女別の相談の伸び率について分析が必要と考える。

(篠崎委員) 男性は相談したら弱いと思われると感じる人が多いのではないか。男性でも相談できることがわかりやすくなればよい。

(事務局) DV相談専用電話では男性からの相談も受けているが、法律上の規定がないことから男性に対する保護等の支援体制が確立できていない現状がある。相談について幅広く受けていることについて周知に努める。

2 報告事項

(1) 審議会等における女性委員の参画状況（令和5年3月31日現在）について

事務局から資料に基づき、審議会等における女性委員の参画状況（令和5年3月31日現在）について報告した。

主な意見等は以下のとおり。

(美原委員) 市議会、行政委員会、審議会等についての女性割合の目標率はあるのか。

(事務局) 40%を目標としている。

(小林委員) 行政委員会等について、女性委員数が0人の委員会が3つもあるため、まずはその部分を変えていかないといけないのではないかと。

(事務局) 関係機関への声掛け等に努める。

(2) 男女共同参画に関する市民意識・事業所調査の結果について

事務局から資料に基づき、男女共同参画に関する市民意識・事業所調査の結果について報告した。

意見等なし

3 その他

(事務局) 令和6年4月1日より、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行となる。それに伴い、神奈川県においては基本計画を策定した。本市では女性相談の窓口を設け相談支援に取り組んでいるが、県の計画等も踏まえながら、今後も必要な相談支援に取り組んでいく。

以上

相模原市男女共同参画審議会委員名簿

(五十音順)

No.	氏名	所属団体等	出欠
1	岩永 良子	特定非営利活動法人 かながわ女のスペースみずら	欠席
2	大木 恵	相模原市自治会連合会	出席
3	大谷 幸恵	相模原市私立保育園・認定こども園 園長会	出席
4	鎌田 千代子	公募委員	欠席
5	神谷 静枝	相模原市民生委員児童委員協議会	出席
6	小林 政美	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら	出席
7	篠崎 亮	神奈川県社会保険労務士会 相模原支部	出席
8	竹内 祥子	相模原市退職校長会	出席
9	徳田 晃一郎	神奈川県弁護士会	欠席
10	永井 暁子	日本女子大学人間社会学部社会福祉学 科 教授	出席
11	中西 泰子	相模女子大学人間社会学部社会マネジ メント学科 教授	欠席
12	細野 美佐子	公募委員	欠席
13	松下 龍太	相模原商工会議所	欠席
14	美原 静香	相模原市医師会	出席
15	矢野 由佳子	和泉短期大学児童福祉学科 准教授	出席

※敬称略